



決算審査特別委員会

初の試み「会派代表質問」 (●マーカーの項目は、本文に内容を掲載しています)



大河の会の 視点

質問項目

①未曾有の危機的状況である、新型コロナウイルス感染蔓延目下での、令和2年度決算について

ポイント フェニックス11+の効果

問 燕市が単独で実施したフェニックス11+では、県外在住の学生への支援策など、迅速で他市町村での評価が高かった。中でも飲食事業を中心とした施策の規模と効果をどのように分析しているのか。

答 市内の事業者や市民生活をきめ細やかに支援するため、総額9億7,000万円の対策を講じてきた。飲食業等への支援効果については、「燕応援フェニックスクーポン券」第1弾、第2弾を実施して、総額3億3,000万円以上の経済効果があったと捉えている。ほかにも市内飲食店応援サポート事業、感染症対策施設整備補助金などを講じ、各事業の実施を通じて「ふるさと燕を守る」ことに一定の効果があったと考えている。



市民クラブの 視点

質問項目

- ①産業史料館施設管理運営費
- ②つばめ若者会議について
- ③なかまの会の児童クラブ化推進事業について (他4項目)

ポイント アピール満点、燕市産業史料館・つばめ若者会議

問 コロナ禍の影響で県外への旅行がままならない中で、他の自治体から修学旅行の見学先として産業史料館が選ばれている。

答 令和2年度に燕市産業史料館を訪れた学校は59校、2,667人である。

問 つばめ若者会議全体の具体的な成果について。

答 平成25年の発足から令和2年度までに、累計220人以上の若者が参画し、92の事業を実施している。近年は、まちづくり協議会や商店街と協働してのイベント、市内企業のPR動画の作成など、活動の幅を広げている。昨年2月、都内で開催された「全国まちづくり若者サミット」で、取り組みを事例発表したほか、各種メディアでも紹介され、全国の自治体から問い合わせが来ている。



新風みらいの 視点

質問項目

- ①新型コロナウイルス感染症対策事業について
- ②指定管理者の収支について

ポイント コロナ禍での支援策とその効果

問 学生応援・飲食店支援関連など、コロナ禍での支援9.7億円の総合的な評価について。

答 学生支援は全国レベルで報じられ、大きな反響の元、他の自治体にも同様な取り組みが広がるきっかけとなり、「ふるさと燕を守る」ということに対して一定の効果があった。

問 休業・休館中、職員はどのような業務をしていたのか。指定管理者は、職員の人件費などに雇用助成金を使うなど、支援や管理費の収支改善にどのような努力をしたのか。

答 休館時では、消毒作業をはじめとしたコロナ対策、また平常できなかった業務を遂行し、雇用調整助成金、持続化給付金などの申請も行った。それでも収支不足の施設には、指定管理料の増額で収支均衡を基本として補填した。



公明党議員団の 視点

質問項目

- ①特別定額給付金給付事業について
- ②住宅リフォーム助成事業について
- ③燕口ロボット・プログラミング教室事業について (他3項目)

ポイント 10万円給付と住宅リフォーム助成の経済効果

問 1人につき10万円を給付した特別定額給付金給付事業の経済効果について伺う。

答 実績として対象者7万9,012人に対し、7万8,899人から給付申請があり、支給率は99.9%となった。市民からは「とても助かった」などの声が多数寄せられ、本市においても一定の効果があったものと考えている。

問 住宅リフォーム助成事業における市内業者の経済効果と、市民の反響は。

答 令和2年度の助成金申請者に対して行ったアンケート結果から、「助成金をきっかけに工事を行った」など、事業に起因する直接の工事は約7,300万円であった。コロナ禍において、市内建設業者へのリフォーム工事の発注につながったものと考えている。



議員、市当局とも質問、答弁の時間は概ね10分を目安に実施。実施方法等、さまざまな課題が浮き彫りに。





初の試み「会派代表質問」

(●マーカーの項目は、本文に内容を掲載しています)

注目! 次ページから
各委員による決算審査

日本共産党議員団の視点

質問項目

- ①職員バランスとメンタルヘルスについて
- ②市民の暮らしと健康について
- ③国保会計の収支と基金について

ポイント

非正規職員は750人で
55.4% / 虐待件数増が顕著

問 子供の命を預かる学校・保育など、教育委員会の中で非正規職員は、介助員・管理員は129人と76.8%を占め、保育・学童などでは正規182人に対し496人と73.2%を占めるなど、異常な数字だ。この現状の認識はどうか。

答 確かに非正規である会計年度任用職員が多いのが現状。学校では職員研修も行き、適切に職員配置されている。保育園等では、日中の保育に関わる会計年度任用職員は206人の配置で、正規職員扱いは146人と41.5%となる。正非職員のバランス課題はないと考える。

問 虐待通告は127件から昨年度は177件と1.4倍だ。心理的虐待も77件、2.3倍となった。虐待者の実養父母が増加しているがどうか。

答 配偶者間暴力が増え、目撃児童もカウントされたので増えている。

チームつばめの視点

質問項目

- ①令和2年度当初予算における重点施策について
- ②covid-19感染拡大が及ぼした市政への影響について

ポイント

働きながら子育てしやすい
まちづくりへの影響は?

問

「働きながら子育てしやすいものづくりのまち」を掲げ、新規事業10・拡充事業4・臨時事業1に取り組みましたが、成果に対する認識を伺いたい。

答

決算年度の新規・拡充事業のみならず、これまで続けてきた本市の子育て支援施策が相まって、少しずつではあるが効果が表れてきているものと捉えている。

問

各種計画の進捗と市民生活への影響を伺いたい。

答

計画の進捗に影響が出ている。それが直ちに市民生活に大きな影響を及ぼすとは現時点で言えないと考えているが、事態が長期化・深刻化した場合、検診の受診控えにより病気の発見が遅れたり、高齢者の外出減少により認知症患者が増加するなど、市民生活への影響が懸念される事態もあり得ると考えている。

会派構成について

燕市議会では、会派機能を強化することに取り組んでいます。各会派の構成については、右のQRコードからご覧ください。

